

第8期古賀市介護保険運営協議会（令和5年度第1回）議事録

標題の件について、下記のとおり実施したので、古賀市介護保険運営協議会規則（以下「運営協議会規則」という。）第6条に基づき議事録を作成する。

1. 日時 令和5年5月24日（水）19時00分から20時30分まで
2. 場所 サンコスモ古賀 201 研修室
3. 出席委員 堤啓 会長、福岡綱二郎 副会長
大久保康裕 委員、山下春浩 委員、多田祐二 委員
穴井めぐみ 委員、河村正彦 委員、阿部友子 委員
永沼八重 委員
4. 欠席委員 藤洋介 委員
5. 傍聴者 なし
6. 諮問・報告・議事
 - （1）令和5年度介護保険運営協議会事務局の職員体制について
 - （2）令和5年度介護保険運営協議会スケジュールについて
 - （3）高齢者等実態調査の結果について
 - （4）令和5年度古賀市地域包括支援センターについて
7. 資料
 - 【資料1】令和5年度介護保険運営協議会事務局の職員体制について
 - 【資料2】令和5年度介護保険運営協議会スケジュールについて
 - 【資料3】高齢者等実態調査の結果について
 - 【資料4】令和5年度古賀市地域包括支援センターについて

【当日配付】めぐみカフェ チラシ
介護あんしん相談会そえるて チラシ
地域支え合いネットワーク通信 vol.14
地域支え合いネットワーク通信 vol.15

8. 署名（規則第6条第2項）

会長	
会長の指名する出席委員	

9. 会議内容

(1) 令和5年度介護保険運営協議会事務局の職員体制について 資料1

事務局より、令和5年度介護保険運営協議会事務局の職員体制について報告。

【質疑】

- 介護保険系の認定調査員は3名で足りているのか。
⇒ 市で任用している調査員以外に調査会社への委託も行っている。最近は新規申請が多くなっているが、現在のところは充足している。
- 第1と第3地域包括支援センターの管理者は主任ケアマネジャーとなっているが、ケアマネジャーの欄の人数に主任ケアマネジャーも含まれているのか。
⇒ 各圏域地域包括支援センターに配置されている主任ケアマネジャー職の職員については、ケアマネジャー職とは別の職員が配置されている。

(2) 令和5年度介護保険運営協議会スケジュールについて 資料2

事務局より、令和5年度介護保険運営協議会スケジュールについて説明。

【質疑】

- 地域包括支援センターを公募するのはいつ頃からか。
⇒ 具体的な日には決まっていないが、時期としては7月下旬から8月上旬を考えている。

(3) 高齢者等実態調査の結果について 資料3

事務局より、高齢者等実態調査の結果について説明。

【質疑】

- 他市と比べてみて、古賀市がうまくいっているところや足りないところがあるのか。
⇒ 「ゆい」での介護予防の取り組みは他自治体より早く取り組んできており良い点だと考える。しかしながら、コロナ禍で地域活動がストップしたこともあり、サポーターの方たちのモチベーションが少し下がっている。また、再開できている地域とそうでない地域とがある状況。サポーターの方からは、足腰や認知機能の低下が見られる高齢者が増えてきたという話も聞いており、地域活動を再開し、しっかり介護予防に取り組むことが重要であると感じている。
- 交通手段がないから外出できないという方が多いように感じたが、コミュニティバス等はどうなっているか。
⇒ 「のるーと古賀」という、事前に申し込んで近くまで来てもらうコミュニティバスが日吉・花鶴地域で運行している。

- 住み慣れた地域で長く住み続けたいという方が多く、地域の支え合いが大事になってくると思うが、地域の担い手の育成が課題だと考える。調査でも助け合いが必要と思っけていても、自分からその活動に加わるということはなかなかできないという結果が出ている。地域活動に踏み出せない人たちを後押ししていくことも行政の役目だと思っけているが、どのように考えてるか。
 - ⇒ サポーターとしての地域活動には一歩踏み出せない方でも、文化活動やスポーツ系の活動に参加されている方もあり、その方たちが学んで終わりではなく、学んだことを地域に反映するという形で生涯学習推進課とも連携しながら活動を進めている面もある。少しだけ学んでみたいと参加される方が続けるうちに「自分にも何かできるかも」という想いを1人でも多くの人に持っけていただい、地域での介護活動が充実し、見守りネットワークが広がっけばよいと考え、サポーターを育成している。

- サポーターの人数は増えているが地域で偏りがある。働きかけを行っけているのか。
 - ⇒ 出前講座の依頼も、サポーターがいる地域とそうでない地域では、回数等に差がある。健康格差にも広がっけていくので、意識的に出向い、健康測定等から興味を持っけてもらったり、地域のお世話役の方に介護予防の活動を紹介するなど声かけを行っけていたりしている。

- 花鶴丘3丁目区の福祉会では、40代・50代の人ではなく、60代・70代の仲間と一緒に活動している。まだ元気な人が困っている人を助けるという構図ができてい。例えばお出かけサポートでマイクロバスにて店舗への買い物、資源ごみの分別の手助けや日曜喫茶等を行っけてい。仲間同士で助け合うことが自然にできており、3丁目の活動を紹介できたらいいと思っけてい。

- 福祉会活動を推進という点では、花鶴丘3丁目区は理想的な形で、やはり「仲間」としての声かけが繋がりになっけていと思っけてい。
 - 市役所や社協が主導するとやらされていという感じになり難しく、地域の中から出てきた活動は広がりがあり長続きする印象がある。自ら手をあげることはされないが、声かけがあれば参加されるという方も多いと感じる。

- 行政頼みではなく、地域が主体的に動かないといけないと考える。しかしながら地域によっては毎年区長や役員が変わり、活動ができていない所もある。地域差は出てしまうだろうが、完全に置いてきぼりになる地域を作らないようにしていくことが大事。行政として、区長会での各区の活動報告や生活支援コーディネーターとの連携など、取り組みの可能性があると情報を提供して共有していくことが必要だと思っけてい。

(4) 令和5年度古賀市地域包括支援センターについて 資料4

事務局より、令和5年度古賀市地域包括支援センターについて説明。

【質疑】

- 第2地域包括支援センターの重点取組みとして事業継続計画の策定とあるが他の地域包括支援センターではどうなのか。
⇒ 災害や感染症対策についての計画策定については、各圏域地域包括支援センターで考えられているところだが、定例会等でも各計画を共有するようにしており、各々参考にされているところである。

- 第3地域包括支援センターで85歳以上の実態把握について、どのくらいの頻度なのか。
⇒ 具体的な頻度や件数は本日お示しできないが、第3地域包括支援センターの職員が出向いて相談などを受けた中で把握をしている状況。昨年度に引き続き、今年度も計画的に地域へ出向くことで、実態把握に取り組んでいきたい。

- 第3地域包括支援センターは、青柳にあるため小野校区と少し距離があるが大丈夫か。
⇒ 生活支援コーディネーターで毎月情報交換会を行っているが、第3地域包括支援センターでは、小野校区の民生委員がよく相談に来ると聞いている。小野校区では、すべての行政区の民生委員が福祉を兼務でやっているのので、要支援者など課題のある方の情報を把握されており、心配な時には地域包括支援センターに相談し、センター職員が訪問するという形をよく取られている。

(5) その他

- ・議事録について
署名については堤会長と大久保委員にお願いする。

- ・次回開催日程について
令和5年度第2回を6月28日（水）に開催予定。